

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX618／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	保守主義の聖典？ エドマンド・バーク『フランス革命についての省察』の後半を読む		
担当者名 (Instructor)	高橋 和則(TAKAHASHI KAZUNORI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

- ① 政治思想上の「文明社会論」と政治経済学を理解する
 - ② 18世紀政治思想に最大のインパクトを与えたエドマンド・バークの政治思想を検討する
- ① understand the theory of civilized society and the political economy
 - ② articulate the political thought of Edmund Burke

授業の内容(Course Contents)

現在では日本の政治を考察するときにも、保守とリベラルという概念が対立的に使われて(しまつて)います。そして保守ないし保守主義を創始したとされるのが、エドマンド・バーク『フランス革命についての省察』です。でもそれは本当なのか。当人は自分のことを文明社会論者であり政治経済学者だと思っていたようです。その答えを出せるかどうかはわかりませんが、本演習ではバークの政治思想を『フランス革命についての省察』の後半部分を読むことで検討してみたいと思います。ただ読解のためには多少道具が必要です。途中で調達しながら読んでいくことにします。後半部分からの参加でも理解できるようになっています。

This seminar tries to understand the political thought of Edmund Burke by reading his main work 'Reflections on the revolution in France'

授業計画(Course Schedule)

1. ゼミの構成と進行について
2. エドマンド・バークとその時代 フランス人権宣言も
3. 商業社会と公債・投機について
4. バーク『フランス革命についての省察』6 節
5. フランス啓蒙思想とルソーについて
6. バーク『フランス革命についての省察』7 節
7. モンテスキューと中間団体論について
8. バーク『フランス革命についての省察』8 節
9. イギリス混合政体とアシニア紙幣について
10. バーク『フランス革命についての省察』9 節
11. フランス高等法院、ジャック・ネッケルそしてジョン・ローについて
12. バーク『フランス革命についての省察』10+11 節
13. バーク『フランス革命についての省察』12 節
14. バーク『フランス革命についての省察』13 節

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの精読

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容(50%) / ゼミへの貢献(50%)

テキスト(Textbooks)

1. エドマンド・バーク、2020、『フランス革命についての省察』、光文社(古典新訳文庫) (ISBN:978-4-334-75430-3)

参考文献(Readings)

1. 廣松渉ほか編、1998、『岩波哲学・思想事典』、岩波書店 (ISBN:4000800892)
2. 今村仁司・三島憲一・川崎修 編集、2008、『岩波社会思想事典』、岩波書店 (ISBN:9784000803120)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:15名前後

配当年次:2-4年

選考方法:レポート

①題目:志望動機と自己紹介

②字数:合わせて1200字程度

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)